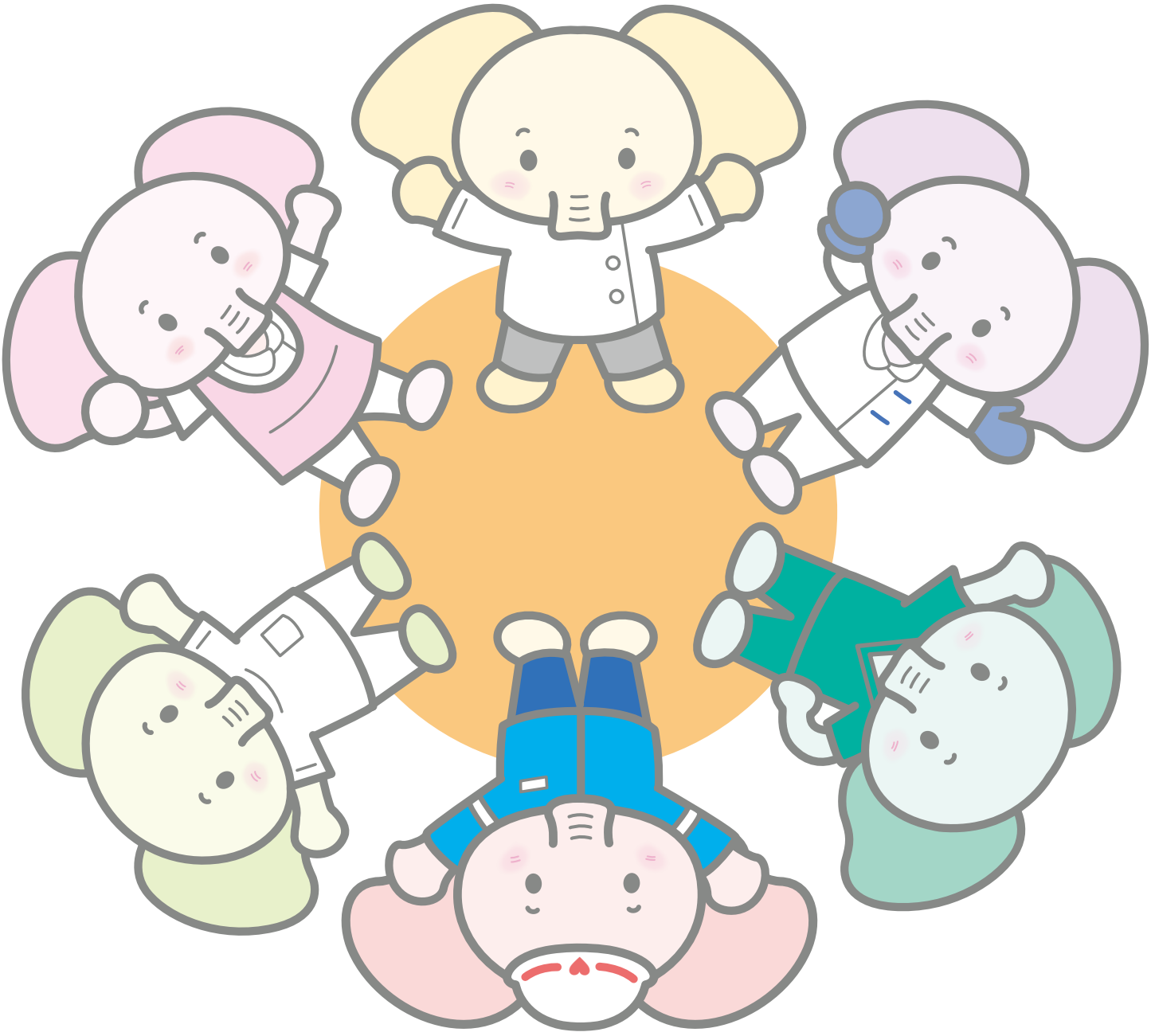
ZOSAN HIROBA

堺市立総合医療センターと市民の健康をつなぐ広報誌

ぞうさん広場 Vol.35

特集 診療支援部門



地方独立行政法人 堺市立病院機構
堺市立総合医療センター
SAKAI CITY MEDICAL CENTER

特集

診療支援部門

チーム医療を支える薬剤・技術局

19の専門職種が勤務している薬剤・技術局のスタッフは、チーム医療の一員として高度・専門医療の提供に重要な役割を果たしています。

元薬剤・技術局長　**石坂 敏彦**

薬剤・技術局長　**藤井 宏一**

薬剤部門と技術部門の円滑な連携

薬剤部門と技術部門がそれぞれ独立した病院が多い中で、当院は地方独立行政法人に移行した当初にそれらの部門を統合した「薬剤・技術局」を発足させました。薬剤・技術局は診療支援部門として12科1室で構成され、その支援分野は、内科、外科、小児科、救急科など35の診療科全般にわたっています。かつての医療では医師と看護師の連携はあったものの、薬剤師や技術職の連携が弱いという課題がありました。しかし、各分野の専門職種が一つの部門に集まった薬剤・技術局ではその課題が解消され、それぞれの利点を活かした連携が格段にアップしました。近年当院が強く進めているチーム医療に大きく貢献し、医療の質の向上を支えています。

チーム医療を支える〝積極的支援〟

薬剤・技術局が注力していることは、従来の指示待ち支援ではなく、各職種が専門知識を活かし、医師に提案をしていく〝積極的支援〟です。その積極的支援のキーワードは「チーム医療」です。現在の医療はチーム医療が主体となっており、薬剤・技術局のスタッフは、患者さんの意向や価値観を尊重しつつ多職種が専門家としての意見を出し、積極的に関わることで適切な医療が提供できるように支援しています。例えば、整形外科の手術で入院された場合、医師、看護師に加え、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、さらにMSW（医療ソーシャルワーカー）などの多職種が積極的に関わっています。

また、入院すると、かつては「安静にしてください」という指示が出てベッドの上で寝ているだけでしたが、それでは筋肉量が格段に減少することが分かってきました。現在では早期離床を促すベッド上でのリハビリを行うようになっています。こういった場面でも薬剤・技術局のスタッフが活躍しています。このように各職種によるデータに基づいたチーム医療が進歩していることから、今の医療は昔の医療と大きく変化してきました。患者さんにとって非常に良い環境になっています。

資格取得の推奨と人材育成

最近はインターネットなどで医療に関する情報が入手しやすくなり、また自身の体験からも患者さんは多くの知識を持っています。個々の患者さんに応じた指導をするためには、日進月歩で進化している医療の技術や情報などのアップデートを心がけて、専門的・先進的な知識を深めなければなりません。

当院は資格取得を支援するとともに、育成システムの充実を図っています。資格を取得するというのは自身のモチベーションの向上と、医療の質向上につながっていきます。薬剤・技術局では、習得した知識を他のスタッフと共有し全体のレベルを上げていくことを推進しています。近年、超高齢社会に突入し、当院では入院患者の半数以上が複数の併存疾患を有している高齢者であることから、多種多様な知識が必要となってきています。そのため、資格取得で得られた知識を実践で活かしながら後輩にも継承しています。また、知識は継承して終わりではなく、さらに新しい領域の知識習得にも努めています。

院外との連携を推進

当院は急性期病院であるため、基本的には患者さんが長期に入院することは少なく、退院後、他院で治療を受けられる患者さんをサポートするには“院外との連携”が不可欠となります。例えば、がん患者さんには抗がん剤の副作用への対応や食事のアドバイスを継続していかなければなりません。そのため当院と他院が同じ視点で患者さんをフォローする必要があることから、当院の治療情報を他院と共有しています。また、MSWは転院先と、薬剤師は保険薬局と、リハビリは地域のリハビリ施設と、看護職は訪問看護ステーションとの連携など、それぞれの職種がその取り組みを行っています。今後もさらに充実・強化していく方針です。

地域で予防支援の取り組み

医療の側面からみると、薬剤・技術局は診療支援部門ということになりますが、高齢化が進むにつれて院外での取り組みが求められるようになってきました。それは「予防」の側面からの取り組みです。「医療機関にかかる前の予防」については疾病予防管理センターが統括しており、そこに主体的に関わるのは医師ではなく診療支援部門の役割と考えています。栄養状態や運動機能、口腔機能の低下により医療機関に行く一歩手前で食い止めることを目的として、薬剤・技術局は地域での活動も行っています。健康なときから病院のスタッフが関わることで市民の意識改革につながると考えています。

フレイル予防イベントに約300人が参加

具体的には「フレイル※にならないために健康な時に歩きましょう、しっかり食事を摂りましょう、食事では噛む力を意識しましょう、それが脳の活性化につながって認知症の予防につながります」と呼びかける活動を家原寺地区で展開してきました。現在の心身の状態を可視化し、日常行動が変化することで、筋肉量の増加などが実感できれば、やりがいにつながります。そのような気づきによって活動が維持され、病院にかかる頻度の減少が期待されます。このような取り組みには各領域の専門家として、薬剤・技術局からは理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士などが協力しています。そして、これまでに300人以上の市民が参加されています。今後この取り組みを堺市全体に拡げるとともに、全国的にも発信をしていきたいと考えています。

※ 高齢化とともに身体的機能や認知機能が低下して虚弱の状態になること

薬剤師

橋本 貴子（薬剤科）

入院時に患者さんの常用薬や服薬状況を確認し、新たに開始する薬の説明を行います。その際、薬の相互作用のリスクなどを評価し、医師と連携して適切な治療を提案することで患者さんの治療を支えています。

日比野 泰志（薬剤科）

手術が予定されている場合など、休薬や再開時期を見極め、リスクの最小化に努めています。また、退院後の薬物治療が安全に継続できるよう、かかりつけ薬局へ情報を共有し、地域全体で患者さんの治療を支えています。

薬剤・技術局の 職種紹介

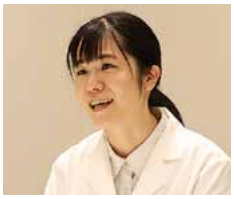
診療支援部門で働く多職種がどのような業務を行い、患者さんを支援しているか紹介します。

救急救命士

松原 栄秀（救急救命技術科）

救急現場では、まず心拍数、呼吸状態、酸素飽和度などのバイタルサインを測定し、見た感じの容態を医師に伝えます。時間との勝負なので、常に先回りして準備することが重要になります。

社会福祉士



吉田 友理香（地域連携技術科）

自宅への退院が難しい方のリハビリや療養を目的とした転院調整や在宅復帰へ向けた退院援助、さまざまな事情で治療を受けることが難しい方の相談支援を行っています。

歯科衛生士

廣島 涼乃（歯科技術科）

ご自身で口腔ケアをできない患者さんや手術前後の口腔ケアなどを行っています。人工呼吸器を着けている方など、口腔ケアが難しいさまざまなケースに対応しています。

視能訓練士

堂前 芽依（眼科技術科）

白内障や緑内障の検査、眼鏡合わせ、手術を受ける患者さんの視力検査など、目に関わるさまざまな検査を行っています。

臨床心理士
（心理技術科）

心療内科や緩和ケアチーム、精神科リエゾンチームなど、さまざまな科やチームに所属し、患者さんの心理的なケアを行っています。患者さんの心のテーマに向き合い、自分らしく生きることについて一緒に考えていく仕事です。

臨床検査技師

細川 明日香（臨床検査技術科）

血液検査や尿検査をはじめとする検体検査、心電図、超音波などで身体の状態を調べて、診断や治療方針を決める判断材料をデータで報告するのが仕事です。

臨床工学技士

中西 亮介（臨床工学科）

手術室や集中治療室、透析室をはじめ、院内のあらゆる医療機器の操作や点検が主な業務です。例えば、手術室では術中の人工心肺装置を操作し、病室では人工呼吸器の操作やチェックをします。透析室では透析装置の操作を行い、透析患者への穿刺、シャント管理も行います。

保育士

柿原 咲月（保育技術科）

小児病棟には0歳児から中学生までの子どもが入院していて、7人の保育士が24時間体制でサポートしています。日中はごはんやおやつの介助、小学生には工作、塗り絵などの介入、付き添いが無い乳児にはミルクの介助もします。

管理栄養士

田中 帆乃美（栄養管理科）

患者さんに応じた栄養管理や栄養食事指導を行います。医師、看護師、薬剤師や言語聴覚士などと共に栄養改善に取り組む栄養サポートチームの一員でもあります。

診療放射線技師

西野 良祐（放射線技術科）

レントゲン、CTやMRIなど画像検査と放射線治療を行っており、早期発見・早期治療につながる重要な業務を担っています。医師のオーダーに対してどのように撮影すれば的確な画像ができるのか慎重な検査が求められます。

言語聴覚士

山口 晴菜
（リハビリテーション技術科）

話す、聞くなどのコミュニケーション能力の評価と、食べる、飲み込むなどの嚥下に関する評価を行っています。一般の食事ができるか嚥下食が望ましいかを判断して決定します。

他にも、薬剤・技術局には、医学物理士、理学療法士、作業療法士、歯科技工士、公認心理師、臨床開発モニター、治験コーディネーターなどさまざまな職種が所属しています。

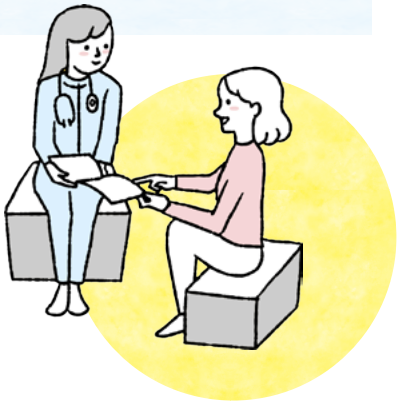
薬剤科

医療の高度化に伴い、薬に関する判断の重要性が増し、薬剤科への期待も高まっています。その期待に応えられるよう、誇りを持って業務に取り組んでいます。

入院患者への調剤・服薬指導に加え、医師と連携し、処方内容や副作用の確認を行うことで安全かつ適切な薬物療法を支援しています。外来では、抗がん剤やHIV治療薬など取り扱いに高度な知識が必要な薬剤について患者さんに丁寧に説明し、安心して治療が継続できるよう努めています。
また、地域の保険薬局と連携（薬薬連携）し、医療の質向上に努めています。

薬剤・技術局の部署紹介

診療支援部門は患者さんの命を救うため日々奮闘しています。
今回は薬剤・技術局の現場から５つの部署を紹介します。



臨床工学科

医療機器のスペシャリストが院内の医療機器の操作・点検を行うことで患者さんに安心を届けています。

人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工心肺や透析の機器など、院内の各所にあるさまざまな医療機器の操作・点検が主業務です。医療機器は患者さんの命に直結していることを自覚して業務に取り組んでいます。医療機器を架け橋としてチーム医療に貢献することは重要な任務としていますが、AIの発達とともに医療機器は急速に高度化・複雑化しているため、常にアンテナを張って最新機器の情報収集に努めています。

放射線技術科

主として放射線を扱った画像検査と治療を行う部署です。

レントゲン、CTやMRIなどの画像検査を行い、医師が診断しやすい画像を提供することが使命です。医師に提供した画像が早期発見・早期治療に役立つことを願って業務に励んでいます。患者さんが安心して検査や治療を受けられるように心がけ、技術の研鑽や最新情報の収集、機器点検を丁寧に行うことを念頭に、日々努力しています。

臨床検査技術科

医師の診断に必要な情報を集めて検査結果を報告する部署です。

医師が適確な診断を行うために、信頼のおける検査結果を医師に提供することが最大の使命です。血液検査、尿検査、心電図、がんの検査などのほか、手術時の輸血製剤の準備や、手術で採取した検体で病理検査をすることも重要な業務です。患者さんが安心して検査を受けられるように、全ての作業を正確に遂行することに注力しています。

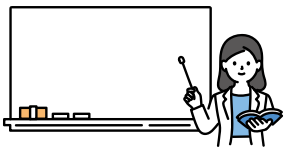
リハビリテーション技術科

それぞれの専門職が患者さんの状況に合わせて支援をしています。

基本動作能力の回復を図る練習を行う場合は理学療法士、言語機能の回復を図る練習には言語聴覚士、応用動作能力の回復を図る練習には作業療法士が支援し、患者さんの社会復帰や在宅生活に向けて機能回復をサポートする部署です。

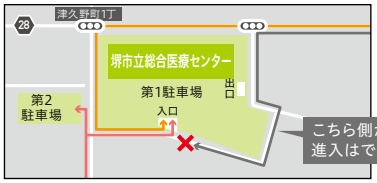
市民健康講座 開催報告

2025年2月7日（金）に市民健康講座を開催しました



「脳卒中を勉強して未然に防ごう」をテーマに脳卒中の予防や症状、治療などについて医師が講義しました。質問コーナーでは参加者の疑問や質問に専門医が丁寧に耳を傾け、ひとつずつお答えしました。時間には限りがありましたが、気になることを気軽に相談できる貴重な機会として、好評をいただきました。講義終了後には、事前にご予約いただいた方先着20名に動脈硬化測定を実施しました。

Access 交通のご案内



※当院駐車場へのご利用は一方からの進入となっております。
※午前中は大変混雑しますので、第２駐車場もご利用ください。

堺区・南区方面に送迎バスを運行中！

堺区ルート 19本/日　南区ルート 8本/日

スマホから送迎バスの位置情報がわかります

詳しくは、ホームページをご確認ください

無料 ※平日のみ

バスでお越しの方

中もず駅前、石津川駅前、深井駅、泉ヶ丘駅、若竹大橋、栂・美木多駅、堺東駅前

上記の南海バス停留所から、堺市立総合医療センター行きのバスをご利用ください

電車でお越しの方

JR阪和線津久野駅　徒歩約5分

車でお越しの方

阪和自動車道「堺IC」より10分
阪神高速道路15号堺線「堺出口」高架道を出口まで進み
国道26号線より15分

駐車場料金のご案内

一般ご利用者（お見舞い等）	当日受診された方	手術付き添いの患者さんのご家族等
最初の1時間 200円	5時間まで 200円	24時間まで 200円
最初の30分以内に出庫の場合は無料。以降30分毎に100円		当日受診された障害者手帳をお持ちの方：無 料

地方独立行政法人 堺市立病院機構
堺市立総合医療センター
SAKAI CITY MEDICAL CENTER
〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号
TEL.072-272-1199
https://www.sakai-city-hospital.jp/